

## 2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	建築プログラミング小委員会	主 査 名：山田哲弥 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会	委員長名：浦江真人
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>■設置目的 施設の企画・計画における「建築プログラミング」(具体的な施設の設計・デザインを決める前提となる諸条件を抽出・整理していく活動)についてその方法論と効果について調査研究を実施する。</p> <p>1) 施設の事業者・利用者をはじめ関係する 様々 な主体が協働して、施設づくりを行うプロセスについて機能、経済、社会文化的価値を探求する。2)建築プログラミング活動について背景/理論、主体/体制、活動/行為、プロセス /手続き、ツール/場、成果/価値等に関する 知見を蓄積、モデル化する。3)建築プログラミングの知見を広く会員・社会に展開し、より価値の高い建築物の創造に寄与する。4)上記に関わる社会教育・生涯教育・専門家教育等の基盤となる知識体系を整理し、社会に公表する。</p> <p>■各年度計画 初年度：事例から読み取れる建築プログラミング活動の顕在化、整理 2年度：建築プログラミング活動の整理、追加事例調査 3年度：建築プログラミング活動の整理、追加事例調査、資料集目次検討 4年度：資料集の企画・編纂、普及展開方法の検討</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：山田哲弥 (清水建設) 幹事：松下聡 (フリーランス)、柳澤要 (千葉大学) 委員：安藤亨 (三重県建設技術センター)、井上誠 (宮城大学)、本多久美子 (日建設計総合研究所)、児玉達朗 (大熊町)、末廣健一 (フリーランス)、藤村達雄 (東京音楽大学)、溝上裕二 (ジョーンズラングラサール)、柳沢和彦 (武庫川女子大学)、柳父行二 (セカンドカード研究処)、田中康裕 (フリーランス)、内藤拓也 (清水建設)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>建築プログラミング情報リサーチ WG： 小委員会と同時開催し、公開研究会の企画、実施、資料作成などの作業を担当する。事例探索並びに調査結果の分析・モデル化などを自主的に実施する。</p>	
2023 年度予算	65,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/keizai/prg/">http://news-sv.aij.or.jp/keizai/prg/</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	12 回 (年度内計画を含む)
刊行物	1. 該当なし
講習会	1. 該当なし
催し物	1. 該当なし
大会研究集会	1. 該当なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 該当なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 建築プログラミング情報の収集・整理 (継続) ・社会福祉法人佛子園関連プロジェクトについて、法人理事長・設計担当者ヒアリング。佛子園現地訪問調査 (白山・金沢・輪島)。 ・居場所ハウス・震災復興関連施設訪問調査 (大船渡・陸前高田) ・近畿支部発表 (2 編)</p> <p>2. 研究会の企画検討 (継続)</p> <p>3. 建築プログラミング情報の整理と手法の一般化 (継続)</p> <p>4. 建築プログラミング・ガイドライン (教科書) の企画・編集 (継続)</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 事例情報収集：新型コロナウイルス感染症 5 類移行に伴い、現地視察・関係者へヒアリング等の活動を再開。視察等にもオンライン活用可能か検討要。</p> <p>2. 委員会開催：委員会は WEB 会議システムと会議室併用で実施。今後、WG を中心に若手人材を委員会活動に組み入れていく方策が必要。</p>